

みちのく
ココロと
カラダの
癒し旅

達人の旅指南
第105回

フリーライター 加藤隆悦

大館矢立ハイツ

大館市
長走

樽風呂もある露天風呂

気軽に利用できる温泉

本県から国道7号を北に向かうと、天然秋田杉の美林に覆われた青森県との県境に位置する緩い上り坂に至る。峠を越えると後は緩やかに津軽路へと下っていく。

その矢立峠に建つ大館矢立ハイツは、現在、立ち寄り湯もできる道の駅として、ドライブの途中で一息いれるスポットになっている。現代版の峠の茶屋とも言えようか。

大館矢立ハイツは勤労者福祉施



国道7号の矢立峠に位置する大館矢立ハイツ。宿のすぐ先が秋田と青森の県境



設として昭和55(1980)年に国の雇用促進事業団が建設し、後に増改築工事を経て平成7(95)年に大館市に移管されリニューアルオープンした。いわゆる「公共の宿」だが、制約なく誰でも気軽に利用できる。通常期は一泊二食で1万円前後(平日・週末とも同一料金)で泊まれる温泉宿泊施設として、北東北を車やバイク、自転車でする人たちにも重宝がられている。

天然温泉と料理が魅力

客室は10畳の和室が全11室、それにツインベッドの洋室が1室ある。リニューアル時に増築された浴場棟は広々としていて、平成19(200



上/1室のみツインベッドの客室
下/メインの客室は広縁付きの10畳の和室

7)年からは新しく掘削したナトリウム塩化物泉(旧泉質名 食塩泉)の赤茶色の湯が源泉掛け流しで張られている。よく見ると湯の表面に薄く油膜が浮いている。コナな温泉ファンなら大いに喜ぶ、野趣に富んだ温泉だ。湯温42度に設定された湯は、膝や腰の痛みを和らげると評判のようで、入浴セットを持参した近郷の人たちもしばしば利用している。

また、新源泉の湧出量が潤沢であったことから、一つしかなかった露天風呂を二つにし、男女とも常時露天の湯を楽しめるようになった。浴場は夜間に男女用を入れ替えるので、1泊すれば両方の露天風呂を楽しめる。風呂からの眺めは天然秋田杉の美林である。

料理にも期待したい。会席料理の修業を積んだ料理長が2年前からこの宿で手掛ける。料理は素材や器に

もこだわり、見た目にも上質感が漂う会席料理だ。改めて旅行に出掛けるというような計画がなくても、家族のさりげない記念日などに利用するのもいいだろう。

館内はセミバリアフリーをうたっていて、フロアの段差にはスロープがついている。車いすも用意されているので、足腰の弱くなった家族を小旅行に連れて行くのにも好適な宿だ。

のんびりとした休日

年末年始やゴールデンウィーク、お盆の頃に加え、青森に近いこともあって、ねぶたシーズン(8月2〜7日)にもお客が集中する。できれば繁忙期は外してゆっくりできる時期に



湯船に浸かりながら天然秋田杉の美林を眺める



露天風呂は宿スタッフの手作りだ



1 焼物はサワラ西京漬、とうもろこし真薯など 2 止肴は焼目帆立の黄身酢掛け 3 マグロ、ホッキ貝、イクラの握り寿司 4 止椀は稲庭うどん 5 先付けは菜の花のおひたし、そばの実など



6 仙台牛の陶板焼き 7 プリとズワイガニのしゃぶしゃぶ



朝食も一人ずつお膳で用意される

大館矢立ハイツ
OHDATE-YATATE-HEIGHTS
〒017-0001 大館市長走字陣場311番地
TEL.0186-51-2311
FAX.0186-51-2314
http://ohdate-yatate.com/
※各種宿泊プランがあります。詳細はホームページをご覧ください。電話でお問い合わせください。

利用したい。
車で大館矢立ハイツに行くには、国道7号で矢立峠を目指せばいいので分かりやすい。JRを利用するのであれば、普通列車なら奥羽本線の陣場駅、特急列車なら同線の碓氷関根(いかりがね)から宿まで車で送迎してくれる(要予約)。
(文・写真)かとうりゅうえつ 秋田市